

## Y8-5

### 10年目職員研修における看護職員の研修効果

大津赤十字病院 看護部  
○廣原 恵子

【はじめに】滋賀県支部主催で赤十字勤続10年目職員を対象に赤十字組織の中堅職員としての役割認識の向上を目的に研修が開催されるようになって3年目となる。20年度研修終了後の看護職員の報告書より、その研修の効果を明らかにしたので報告する。

【方法】支部主催10年目職員対象研修を受講した当院看護部看護師34名と看護助手3名の研修受講報告書に記載された内容より、カテゴリー分類した。

【結果】10年目の看護師34名の報告書内容よりキーワードを抽出し、7のカテゴリーに分けることができた。その結果、1.「コミュニケーションスキル」22名 2.「問題解決能力の向上」18名 3.「中堅看護師としての役割認識」16名、4.「キャリアマネジメント」16名、5.「同期の交流により自己や他者認識」10名、6.「赤十字組織人としての再認識」8名、7.「他施設・他職種の交流」4名であった。看護助手3名の報告書からは、1.「コミュニケーションスキル」2名、2.「問題解決能力の向上」2名、3.「他施設・他職種の交流」「キャリアマネジメント」各1名であった。【まとめ】1. 支部主催の10年目職員研修は、中堅看護師としての役割認識や赤十字職員としての再認識・帰属意識向上の機会となる。2. 「コミュニケーションスキル」「問題解決手法」「キャリアマネジメント」について学ぶことは、中堅看護職員として職場の活性化への動機付けや自己を見つめ今後の方向性を考える機会となる。3. 後輩指導やさまざまな役割を持つ、又は、育児中の10年目の看護職員にとっては、同期の他施設・他職種の合同研修会は、離職防止への一助となる。

## Y8-6

### インドネシア人看護師候補者受入れ第1報

姫路赤十字病院  
○柴田 由美子、三木 幸代

平成20年度より日・インドネシア経済連携協定によるインドネシア人看護師・介護士候補者の受入れが開始された。当院は、国際交流目的とインドネシア人看護師候補者との関わりを通して、スタッフのモチベーションをあげ看護の現状の見直しを期待し2名を受け入れることとした。8月の来日までは、医療・看護の水準、国民性、宗教、生活風土、家庭環境、特に言語の違いから、何を準備すればいいのかわからなかった。しかし、来日翌日の交流会で2名の候補者と初めて出会い、彼女たちの非常に明るく友好的で前向きな姿勢を見て不安が解消し、彼女たちの是非国家試験に合格して看護師として働きたいという強い意気込みを感じた。半年間は大阪・神戸にて語学研修を受け2月に当院に入職したが、その間メールのやりとりや3回面接を行った。具体的には、英文で当院紹介、日本語教室の検索、ルビ付の国家試験過去問題の配布をする等お互いの関係を深め、また生活の場の準備等を行った。入職後2週間は、集中講義等を実施し国家試験に臨み自己採点で約40%正答だった。一番の課題は、日本語の習得と漢字のマスターである。日本語習得に対して、日本語教室の受講、漢字の訓練には小学～中学の教科書や漢字ドリルを職員から提供してもらい活用している。国家試験対策として部署の看護実践を2ヵ月ごとのローテーションとし、毎日15時から2時間の国家試験過去問題集を中心に学習している。また、姫路赤十字看護専門学校に協力を仰ぎ授業受講や模擬テスト参加を実施している。メンタル面に関しては、看護部を中心に家族ぐるみでの関わりや近隣のインドネシア人介護士候補者受入れ施設及び市内の外国人との交流を行っている。特に、病院職員全員が宗教の理解やウェルカムの姿勢で受入れ、誰もが気軽に声をかけ、それに笑顔で答える2名の努力により現在に至っている。